

中学校部活動の地域移行について

1 国における検討状況

(1) 社会的背景・課題

- ① 中学生の文化・スポーツに親しむ機会は、学校が部活動を設置運営する形で確保されてきましたが、少子化や学校の働き方改革が進む中で、現行の学校単位で活動し、指導は教職員が担うという部活動の継続は困難であり、今後、中学生がスポーツに親しむ機会が減少してしまう恐れがあります。
- ② 文化・スポーツの指導を体系的に学んでいない教職員による指導の常態化、過度な練習によるスポーツ障害の発生やハラスメント問題など、必ずしも中学生にとって望ましい文化・スポーツ環境が整っているとは言えない状況があります。
- ③ このような事態を避けるため、学校の部活動に代わり、地域において文化・スポーツ活動の機会を将来にわたって確保・充実できるよう、中学生が地域でスポーツに親しめる環境を構築する必要があります。

(2) 国が示す方針

スポーツ庁及び文化庁に設置された検討会議において、部活動の地域移行に取り組むことが提言されました。(以下、国提言)

<国提言の主な内容>

- ① 休日の部活動から段階的に地域移行することを基本とし、最終的には平日の部活動の地域移行も視野に入れた取組を推進する。
- ② 2023年度から2025年度までの3年間で、休日部活動の地域移行に向けた集中期間と位置付ける。
- ③ 地域におけるスポーツや文化活動機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等にも取り組む。
- ④ 地域のスポーツ団体や文化団体等と学校との連携・協働を推進する。

2 国提言を受けた本市の取組

(1) 取組の視点

生徒のニーズを踏まえたスポーツや文化活動の環境整備を行い、生徒が継続してスポーツや文化に親しむことができる機会を確保します。

(2) 具体的な取組内容

○部活動との連携を考える会の設立

文化・スポーツ室と連携し、関係団体と協議しながら以下の課題整理等を行います。

- ・専門性の高い指導者の確保及び派遣
- ・スポーツ施設の確保
- ・大会のあり方
- ・保護者負担のあり方
- ・各校区ごとの課題 等

(3) 検討体制

学校教育課、文化・スポーツ室

<関係団体>明石市体育協会、明石市吹奏楽連盟 等

部活動の地域移行にあたっては、学校教育のみならず、中学生の文化・スポーツ活動の環境整備という観点から、社会全体の課題として取り組むことが必要となります。

明石市における文化・スポーツ関連団体

1 教育委員会関係

【中学校における部活動】

各中学校において設置・運営しており、現在は、学習指導要領により学校の教育活動の一環として位置づけられ、主に教職員が顧問として委嘱され、指導を行っています。

2022年度は13校で157の部活動が設置され、6,398人(中学生の85%)が部活動に参加しています。(別紙参照)

2019年度から、地域人材を活用し、単独で指導が可能となる部活動指導員を配置しており、2022年10月末現在で3名が配置されています。(陸上競技2名、ソフトテニス1名)

【明石市中学校体育連盟】

県中学校総合体育大会・新人大会を主催する兵庫県中学校体育連盟の下部組織として設立され、学校部活動の普及・振興及び市中学校総合体育大会・新人大会を開催しています。

大会の運営は主に教職員が担っており、2022年度は陸上競技・軟式野球など12競技において大会を開催しました。

<開催競技>

陸上競技、水泳競技、バレーボール、ソフトボール、ソフトテニス、卓球、バスケットボール、サッカー、柔道、剣道、ハンドボール、軟式野球

2 文化・スポーツ室関係

【明石市体育協会】

現在30団体が加盟しており、本市の体育・スポーツ行政の補助機関として、競技力向上のための総合体育大会をはじめとした各種大会の開催、指導者の養成、市民向けの各競技の教室を開催する等、本市スポーツの推進に努めています。

<加盟競技>

陸上競技、バレーボール、ソフトテニス、野球、水泳、サッカー
バスケットボール、ソフトボール、卓球、剣道、柔道、ハンドボール 等

【明石市吹奏楽連盟】

吹奏楽の普及向上に寄与することを目的に、昭和48年に設立され、現在は、市内中学校、高等学校の吹奏楽部、小学生と一般の吹奏楽団、約35団体が加盟しています。

主に学校の吹奏楽部顧問の教諭を中心に運営されており、吹奏楽祭、アンサンブルコンテストなどの事業を実施しています。

3 コミュニティ・生涯学習課関係

【中学校コミセン】

主に中学校に併設された会議室などの施設及び中学校の体育館を活用し、人数や活動内容などの要件を満たした登録サークルが、文化・スポーツ活動を行っています。

活動は、原則週に1回で、中高年の利用者が多いです。

<サークル数>

文科系 134 団体、スポーツ系 401 団体 ※令和4年4月現在

【スポーツクラブ21(小学校コミセン)】

主に小学校に併設された会議室などの施設、小学校のグラウンド及び体育館を主な活動場所とし、スポーツクラブ21内の“開設種目”として各種の活動を実施しています。

運営は主に会員の会費(大人6,000円/年、子供3,600円/年)を活用し、自主的に行われています。開設種目は、小学生を対象としたものが中心となっています。また、大人を対象としたものは、中高年の参加者が多いです。スポーツ系の種目が中心となっています。

<開設種目数>

文化系 33 種目、スポーツ系 291 種目 ※令和3年10月現在

市内中学校部活動入部状況一覽

1 入部率等

学校名	在籍生徒数			クラブ数		スポーツクラブ入部者数				文化クラブ入部者数				全体入部率
	男子	女子	合計	スポーツ	文化	男子入部率	女子入部率	合計	入部率	男子入部率	女子入部率	合計	入部率	
錦城	110	104	214	4 男3女3	2	89 81%	53 51%	142	66%	8 7%	49 47%	57	27%	93%
朝霧	279	240	519	8 男7女6	3	217 78%	139 58%	356	69%	21 8%	77 32%	98	19%	87%
大蔵	285	278	563	10 男8女7	3	228 80%	162 58%	390	69%	25 9%	87 31%	112	20%	89%
衣川	232	261	493	8 男7女6	2	167 72%	160 61%	327	66%	26 11%	70 27%	96	19%	86%
野々池	349	315	664	11 男9女10	3	246 70%	184 58%	430	65%	49 14%	94 30%	143	22%	86%
望海	332	340	672	11 男10女9	3	256 77%	200 59%	456	68%	15 5%	96 28%	111	17%	84%
大久保	499	503	1002	11 男10女9	4	404 81%	284 56%	688	69%	32 6%	155 31%	187	19%	87%
大久保北	385	349	734	9 男9女6	3	289 75%	210 60%	499	68%	35 9%	94 27%	129	18%	86%
高丘	194	184	378	9 男6女6	1	135 70%	94 51%	229	61%	14 7%	45 24%	59	16%	76%
江井島	174	197	371	7 男6女5	3	131 75%	110 56%	241	65%	13 7%	56 28%	69	19%	84%
魚住	342	324	666	12 男9女11	3	237 69%	168 52%	405	61%	46 13%	114 35%	160	24%	85%
魚住東	254	268	522	9 男7女7	2	160 63%	142 53%	302	58%	24 9%	74 28%	98	19%	77%
二見	379	343	722	11 男11女9	5	270 71%	176 51%	446	62%	49 13%	119 35%	168	23%	85%
合計	3814	3706	7520	120	37	2829 74%	2082 56%	4911	65%	357 9%	1130 30%	1487	20%	85%

2 運動部員数

クラブ名	錦城		朝霧		大蔵		衣川		野々池		望海		大久保		大久保北		高丘		江井島		魚住		魚住東		二見		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
野球			19	0	29	0	22		33		31		30	0	27	0	11	4	15		37		14		32		304
陸上競技			31	15	33	11	23	22	35	28	40	27	29	44	40	66			17	16	31	23	26	26	37	29	649
バレーボール	22	12	3	28	16	21		24		13	16	20	48	46	22	23		19		21		24		15	22	19	434
ソフトテニス	29	32	35	31		42	32	38	31	38	36	45	62	42	57	26	24	37	40	43	26	38	37	24	31	34	910
水泳									9	6	24	13	31	8	20	31					23	7			24	5	201
サッカー	30	2	30		35	2	20		39	2	19		52	0	35	0	34		27		23		24		29	1	404
バスケットボール			38	18	35	43	24	29	39	29	27	26	44	50	34		22	24	25	25	29	25	29	26	31	19	691
ソフトボール									24				23									11			1	28	87
卓球			43	33	48	19	38	35	34	29	32	21	60	24	24	42					27	16		26	36	27	614
剣道	8	7	18	14	20	7	8	12	11	14	15	25	13	16							11	7	12	11	12	8	249
柔道					12	1			15	1	16	5					14	10	7	5	0				15	6	107
ハンドボール						16							18	35	31	30	22	30			30	17	18	14			261
小計	89	53	217	139	228	162	167	160	246	184	256	200	404	284	289	210	135	94	131	110	237	168	160	142	270	176	
合計	142	356	390	327	430	456	688	499	229	241	405	302	446	4911													

3 文化部員数

クラブ名	錦城		朝霧		大蔵		衣川		野々池		望海		大久保		大久保北		高丘		江井島		魚住		魚住東		二見		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
吹奏楽	4	22	11	47	14	39	19	28	9	52	5	50	6	74	8	54	14	45	6	30	16	46	10	37	7	42	695
美術・絵画			2	20	9	34	7	42	5	32	19	36		33							8	61	14	37	4	30	393
家庭科	4	27										10		40					2	17						30	130
英語														9	19												28
科学									35	10				18	21												84
囲碁将棋																											0
カルチャー					2	14																					16
演劇																											0
茶華道																		5	9								14
文芸																											0
書道																											0
パソコン																					22	7			34	11	74
工芸																											0
ハンドクラフト			8	10																							18
情報科学													26	8													34
ペンフレンド																											0
ボランティア																											0
合唱																									4	6	10
芸術																											0
小計	8	49	21	77	25	87	26	70	49	94	24	96	32	155	35	94	14	45	13	56	46	114	24	74	49	119	
合計	57	98	112	96	143	120	187	129	59	69	160	98	168	1496													

運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要



スポーツ庁

※公立中学校等における運動部活動を対象

運動部活動の
意義と課題

意義

- 生徒のスポーツに親しむ機会を確保。自主的・主体的な参加による活動を通じ、責任感・連帯感を涵養、自主性の育成にも寄与。
- 人間関係の構築、自己肯定感の向上、問題行動の抑制。信頼感・一体感の醸成。

課題

- 近年、特に**持続可能性**という面で**厳しさを増しており**、中学校生徒数の減少が加速化するなど**深刻な少子化が進行**。〈生徒数：昭和61年589万人→令和3年296万人に半減、出生数：令和3年84万人〉
- 競技経験のない教師が指導せざるを得なかったり、休日も含めた運動部活動の指導が求められたりするなど、教師にとって大きな業務負担**。〈土日の部活動指導：平成18年度1時間6分→平成28年度2時間9分に倍増〉
- 地域では、**スポーツ団体や指導者等と学校との連携・協働が十分ではない**。

これまでの
対応

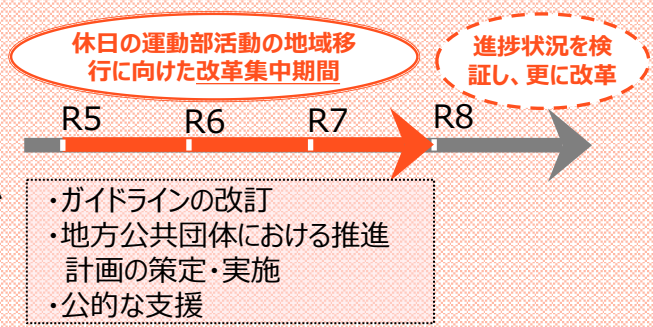
- 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（平成30年3月）：学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境整備を進める
- 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について（令和2年9月）：令和5年度以降、**休日の部活動の段階的な地域移行**を図る
- 中教審や国会等：「部活動を学校単位から**地域単位の取組**とする」旨指摘

目指す
姿勢

- 少子化の中でも、**将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保**。このことは、学校の働き方改革を推進し、**学校教育の質も向上**。
- スポーツは、**自発的な参画**を通して「**楽しさ**」「**喜び**」を感じることに本質。**自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り。部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出**。
- 地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保**。（スポーツ団体等の組織化、指導者や施設の確保、複数種目等の活動も提供）

改革の
方向性

- まずは、**休日の運動部活動から段階的に地域移行**していくことを基本とする
- 目標時期：令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目標**
（合意形成や条件整備等のため更に時間を要する場合にも、地域の実情等に応じ可能な限り早期の実現を目指す）
- 平日の運動部活動の地域移行は、できるところから取り組むことが考えられ、地域の実情に応じた**休日の地域移行の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進**
- 地域における**スポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等**にも着実に取り組む
- 地域のスポーツ団体等と学校との連携・協働の推進**
※改革を推進するための「**選択肢**」を示し、「**複数の道筋**」があることや、「**多様な方法**」があることを強く意識



課題への
対応

- 新たなスポーツ環境**：地域の実情に応じ、多様なスポーツ団体等が実施主体・特定種目だけでなく、生徒の状況に適した機会を確保
- スポーツ団体等**：先進的に取り組んでいる事例をまとめ提供・必要な予算の確保やtoto助成を含む多様な財源確保の検討
- スポーツ指導者**：指導者資格の取得や研修の実施の促進・部活動指導員の活用、教師等の兼職兼業、人材バンク・指導者の確保のための支援方策の検討
- スポーツ施設**：学校体育施設活用に係る協議会の設置、ルールの方策・スポーツ団体等に管理を委託
- 大会**：大会主催者に対し、地域のスポーツ団体等の参加も認めるよう要請・地域のスポーツ団体等も参加できる大会に対して支援
- 会費や保険**：困窮する家庭へのスポーツに係る費用の支援方策の検討・スポーツ安全保険が、災害共済給付と同程度の補償となるよう要請
- 学習指導要領等**：部活動の課題や留意事項等について通知、学習指導要領解説の見直し、次期改訂時の見直しに向けた検討・部活動等から伺える個性や意欲・能力を入試全体を通じ多面的に評価・教師の採用で部活動指導の能力等を過度に評価していれば、見直す

※国立の中学校等でも、学校等の実情に応じて積極的に取り組むことが望ましい。
※公立及び国立の高等学校等については、義務教育を修了し進路選択した高校生等が自らの意思で選択している実態等があるが、各学校の実情に応じて改善に取り組むことが望ましい。
※私立学校でも、学校等の実情に応じて適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。